

# ひとり1改革運動

「ICTの利活用で、新たな行政サービスを創出しよう！」改革賞

## 被災建築物応急危険度判定アプリの開発

【くらし・環境部建築住宅局建築安全推進課建築耐震班】



地震発生後の被災建築物応急危険度判定では、建物の構造により異なる調査票に判定結果を記入しますが、紙の調査票の束や機材を持って調査するため、時間と労力がかかっていました。

そこで、判定効率の向上を図るため、スマートホンやタブレットで調査できるアプリケーションを独自に開発しました。

アプリは、判定結果を片手で速やかに入力することができ、また、GPSによる調査場所の記録も可能で、紙による調査と比べて判定作業の効率が向上しました。

### 取組にあたって留意・工夫した点、苦労した点は？

アプリの開発にあたり、プログラミングの基礎から独学で学び始め、プルダウンメニューによる調査結果の入力や選択肢ボタンにすることで直感的な操作を可能とするなど、調査実施者の負担軽減、調査効率の向上を意識して開発を進めました。

### 今後の取組は？

現在、調査結果をオンラインで集計する機能や、結果をインターネットに公開するシステムを開発しているところです。これにより集計作業の自動化が図られるとともに、住民はリアルタイムで自宅の判定結果や周辺の状況を確認できるようになります。

### 片手で入力が可能

#### 調査

調査方法

- 1 外観調査のみ実施
- 2 内観調査も併せて実施

1 一見して危険と判断される。

0.一見して危険と判断されない

- 1.建築物全体又は一部の崩壊・落階
- 2.基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ

その他の場合

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険

②構造躯体の不同

① 危険  2 不明  3 危険   
無し  確  あり

① 無し  2 著しい床、屋根の破  3 小屋   
又は軽微  い床、屋  組の破

### 調査箇所はGPSを利用



### オンラインで判定結果を報告

- 1 調査済み (緑)
- 2 要注意 (黄)
- 3 危険 (赤)

コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

送信

### 【静岡産業大学情報学部 小泉 祐一郎 教授 から一言】

熊本地震で応急危険度判定を実践した静岡県職員が、被災地の現場での経験の中で端末による入力を思い付き、独学で学習してアプリケーションを開発した過程は、全国に誇れる課題の発見・解決のモデルケースです。情報の集計・分析など一連の事務処理への波及効果が期待できる点も優れています。